

2013年10月20日  
企画委員会 甲斐荘

## 第8回ロードマップ討議ご報告

第8回ロードマップ討議を以下のとおり開催しましたので、概要をご報告します

日時 2013年8月24日(土) 14:30~17:00  
場所 大妻女子大学千代田キャンパス  
参加人数 9名  
会議次第

1. 2012年度活動実績の振り返り
2. 会員にとって価値ある学会へのビジョン創り

学会の学会員にとっての価値向上、会員の増強など当学会にとっての目標達成には「情報システム学会のブランド構築」が必要となるとの認識の下で、学会ブランド構築のベースとなる学会のビジョン創り(明文化)に向けての検討を以下の手順で実施した。

- ① 学会の会員像確認(以下A~Fの6体の会員ペルソナ\*を設定)

番号	属性	番号	属性
A	IT企業 若手女子社員	D	ユーザ企業社員 (30~50代)
B	ユーザ企業 若手女子社員	E	教職者 (大学 教授・准教授)
C	IT企画・開発エンジニア (ITベンダー勤務・40以上)	F	学会創設時メンバー

### \*ペルソナ手法

製品やサービスを開発する中で、対象となる顧客のイメージを共有するために用いられる手法で、アラン・クーパーによって提唱された。ペルソナでは、年齢、職業、技能などの属性分類だけでなく、一人の仮想的な顧客に焦点を当てることで、顧客への感情移入を可能とすることで、開発を行うメンバー相互のコミュニケーションを活性化できる。

② 会員が学会に求めるものはなにか

①で設定したペルソナの中から3つを取り上げ、会員の視点から学会に期待することをブレインストーミング手法により討議した。

ペルソナ分類 A&B 若手女子会社員ペルソナ

氏名 森田 理香子  
職業 ユーザ企業(ないしIT企業)でISに関わる  
趣味 ランニング、Facebook、女子会  
知的活動 講演会への参加

ISSJ(ないし学会全般)に期待すること

- 1 他企業の若手社員と情報交換したい
  - ・同業、ユーザ企業同志、IT企業同志、IT・ユーザ企業間
  - ・自分の困っていることについて相談したい。ヒントが欲しい
- 2 情報システムの基本や事例について知りたい
  - ・主にユーザ系
- 3 SNSを上手に使うための情報が欲しい
  - ・SNS利用上での注意点などの不安解消のための情報
  - ・マーケティングや営業などビジネスへの活用
  - ・趣味での活用
  - ・異業種交流会(朝会のメンバー集め)
- 4 教員・学生会員との接点が欲しい
  - ・大学の授業での講演の機会
  - ・学生会員との交流による就活支援
- 5 企業人の先輩としての会員との交流
  - ・キャリアのアドバイス
  - ・人間中心のIS
- 6 ICT活用による女性の働き方研究会
  - ・女性先輩会員との交流
  - ・女性の働き方

ペルソナ分類 C 中年ITベンダー社員ペルソナ

氏名 情報 太郎  
職業 ITベンダーでシステム開発と企画に携わる  
趣味 なし  
知的活動 サークルへの参加

ISSJ(ないし学会全般)に期待すること

- 1 自己の考えを発表する場が欲しい
  - ・知的活動の成果として
- 2 自己の仕事に役立つ情報収集の場
- 3 同様な問題意識を持つ人との情報交換の場
- 4 同業・異業種の人との幅広い関係づくり
- 5 研究会の場を活用(踏み台に)して自分の考えを広めたい・確立した
  - ・考えのSTANDARD化
- 6 自己のビジネスに役立つ着想(ヒント)を得たい

ペルソナ分類 E 教職者ペルソナ

氏名 横浜 太郎  
職業 大学教員・准教授  
経営システムに関心があり研究テーマとしている  
趣味 スポーツ・音楽  
家族サービス・旅行  
知的活動 ネット・SNS等を利用してコミュニティで討議している

ISSJ(ないし学会全般)に期待すること

- 1 ゼミ生・院生の学外での発表の場
- 2 査読論文の投稿先
- 3 研究会での発表
- 4 企業との交流の場
  - ・ISに関する討議ができること
- 5 ゼミ生・院生の就活のコネクションづくり
  - ・インターン・考えのSTANDARD化
- 6 ゼミ生・院生に企業人による講義をしてもらう
  - ・ベンチャー企業論とか

今回のペルソナ分析の成果を、「会員にとって価値ある学会へのビジョン創り」に活用していくことで参加者全員、一致しました。

以上

ご意見等がございましたら、企画委員会までお願い致します。